

## 14. 震災対応の忙しさで仕事難民

H. N. 46 歳 会社員 渋谷区代々木在住

- どこに誰といましたか。そのときとった行動は？

北青山 1 丁目にある会社のオフィスにいました。地上 5 階地下 2 階建の 1 階でしたので、高層ビルに比べると揺れは小さかったと思います。同じ部の同僚数十人と一緒にいました。すぐにテレビをつけるよう指示し、自分自身はスライド式書類戸棚を押さえました。以前、地震の際に大きく揺れ続けたので。揺れが収まり、震源が判明した後、被害があると思われる支店(仙台、水戸、宇都宮、高崎、柏)の安否確認を指示。

- 自宅にいつ、どのように帰宅しましたか。

会社では、毎年、徒歩帰宅訓練を行っていて、つい最近もしたばかりでした。当日は、震災対応の本社との打ち合わせと指示書作成のため、徹夜。これは、翌日、被災者のため金融機関は開店するよう金融庁から指示があったからです。社員の多くは、自分の席や会議室で仮眠をとりました。翌 12 日(土)の 13:30 頃、自転車通勤のため、青山から自転車で通常通り帰宅しました。16 時頃、会社から呼び戻され、本店丸の内に電車で 18 時集合。帰宅したのは 13 日(日)の未明でした。そしてその日の 7 時出社し徹夜。深夜 2 時に全部員 100 人以上に 3 人で、翌日 6 時集合を電話指示。14 日(月)は 11:30 帰宅。帰りにスーパーで買物難民。

- 自宅に被害はありましたか。

木造 2 階建の自宅は、壁に一部ひびが入り、置物が倒れて欠けていましたが他の被害はありませんでした。自宅に帰っても当初は、頭が興奮状態で寝付けませんでした。日を追うごとに実感しました。

- 最後にひとこと。

被災していなければ、自分や家族のことは自分で責任をもつこと。身の回りのことは自分でできる程度のサバイバル技術の習得と、数日は食べ物や寒さなどにこまらないよう準備をしておくことが必要です。人に迷惑をかけず、むしろ困っている人に手を差し伸べられるようにしたいものです。

2011年7月3日